

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
1 生徒を伸ばす学習指導	① 研究授業(教科) 全教職員が年間2回以上参加	①フレッシュ研修Ⅰ,フレッシュ研修Ⅱ,ミドルリーダー研修,中高チームティーチング公開授業等,研修の機会を活用し,効果的にICTを用いる授業力の向上に関する研修を行う。 ①年2回の相互参観授業月間を設定し,参観シートにより授業研究を行う。	①年2回(6月,11月)の相互参観授業月間を含め,予定通り実施することができた。	①フレッシュ研修Ⅰ,フレッシュ研修Ⅱ,ミドルリーダー研修,中高チームティーチング公開授業を実施し,授業研究会または,授業参観シートにより授業力向上研修を行った。	B	①電子黒板が活用され,生徒一人一台タブレット端末などICTを用いた授業を推進するとともに,学科の特性を活かし,グループ学習や習熟度別,個別指導など場面場面に応じた適切な指導法を試みる。
① 分かる授業と基礎基本を定着させる指導と支援 ② 学習意欲を向上させ,学習習慣をつける指導 ③ 効果的な習熟度別授業展開と個別指導の充実 ④ 国際交流活動を通しての異文化への興味・関心の向上と異文化理解 ⑤ 普通科及び森林クリエイト科の特長を生かした教育活動の充実	② 家庭学習の習慣がついたと感じる生徒 40%以上 ③ 那賀高校は一人一人の希望・能力・適性に応じた,進路指導をしている。 「当てはまる」と答えた生徒の割合 80%以上	②1週間ごとに週末課題を課し,家庭での学習習慣をつけさせる。また,実態に応じた補習授業を計画し,積極的に実践する。 ②Classi等を活用して定期的に学習状況調査を実施して,学習に対する自己反省をする機会を設け,学習の動機づけを図る。 ③コース選択を見据え,十分なガイダンスを行い習熟度別また科目選択において少人数による指導を徹底する。さらに補習においては学科の枠を越えた横断的な授業展開を行う。また,授業の指導法と評価の在り方について全教職員の共通理解を図り,実践する。	②実カテストの生活実態アンケート結果(4月,1月)から,宿題を行う生徒は全学年40%は超えた。しかし,学習を全くしない生徒の割合が1学年16.4%→49.1%,2学年29.3%→40.7%と,増加傾向にあることが課題となった。 ③生徒対象の学校評価アンケートで「とても当てはまる」約16%,「当てはまる」約47%,「やや当てはまる」約28%,「まったく当てはまらない」約8%となり,一定の成果と課題の両方を得た。	②年2回,同じテストのアンケートを実施して生徒の学習状況の推移を調査した。進路希望調査も年間5回実施し,それら内容を個人面談や三者面談にも繋げた。 ③3年生では進学・就職・公務員希望者の補習を展開した。就職・進学前には個別面接指導計画を実施した。普段の授業外でも,個々の進路実現に向けての対策を適宜実施することができた。また,習熟度別の対策として,1学年普通科+希望者にはスタディサプリを導入し,早朝補習での活用や,到達度テストを年2回実施するなどして,学び直しの実践を行った。		②生徒の学習状況の調査,実カテスト後の事後指導など,生徒の学習習慣の定着の働きかけを継続的に行う方法を検討していく。 ③1,2学年においても就職や進学における具体的な進路指導を実践することで,よりきめ細やかな進路指導を実践していく。
	④ オンライン会議や電子メール等の活用による新しい生活様式に対応した国際交流活動を相手先担当者と検討を重ねて,実施する。(年1回以上)また,可能であれば姉妹校であるオーストラリアセントメアリーズ校を訪問する。	④昨年度まで,隔年でのオーストラリア・セントメアリーズ校との相互交流が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中断していた状況である。訪問が可能であれば対面の交流をしたり,ICTを活用したりして,多くの生徒がグローバルな視点を養えるよう交流を行う。 ④ドイツニーダーザクセン州の生徒との交流についても,引き続きオンラインの活用と対面での交流を検討する。	④ オンラインや電子メール等を使用し,台湾の生徒と交流を行うことができた。姉妹校であるオーストラリアセントメアリーズ校との交流はできなかったが,ニュージーランドで語学研修を行った。	④新しく台湾国立新化高級中學と交流を行った。Zoomを使用しての交流(5回)や,メールのやり取りをしたり,教員生徒が来校し,直接交流したりすることができた。また,ニュージーランドのIPUNZ大学で1週間の語学研修を行い,現地でも交流を行った。	A	

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
	<p>⑤-1(両学科共通)生徒の授業満足度 75%以上</p> <p>⑤-2 普通科及び森林クリエイト科の教育活動について互いに理解している生徒の割合 75%以上</p>	<p>⑤-1(普通科)2年次からコース選択制の授業展開とし、コース選択におけるミスマッチがないよう、各コースの特長を生かしつつ、一人一人の進路希望に応じた指導を行う。</p> <p>⑤-2 生徒が那賀高校の特長である普通科と農業科(森林クリエイト科)併置の強みを理解できるよう、普通科においても農業科目が履修できる教育課程とし教育活動の場面で周知を図る。</p> <p>⑤-2(森林クリエイト科)林業学習を中心として、関係機関と連携し、地域資源の活用や最新技術の習得、インターンシップの充実、資格取得等をおして専門的知識・技術の深化を図る。</p> <p>(ア) 地域資源の活用 → 地域機関との連携学習を5回以上実施する。</p> <p>(イ) 最新技術の習得 → 高性能大型林業機械、ドローン等の講習会を3回以上実施する。</p> <p>(ウ) 資格取得 → 林業関係の資格を3つ以上取得する。</p> <p>・生徒が那賀高校の特長である普通科と農業科(森林クリエイト科)併置の強みを理解できるよう、教育活動の場面で周知を図る。</p>	<p>⑤生徒の授業満足度は約93%である。</p> <p>⑤それぞれの学科の教育活動について、互いに理解している生徒の割合は、約79%である。</p>	<p>・普通科におけるコース選択ガイダンス等面談も繰り返し、また授業におけるICTの活用や農業科目を開設等により満足度、理解度ともにそれぞれ昨年度の72%,69%から大きく改善することができた。</p> <p>・森林クリエイト科においても地域の特産品である木材を活用し、地元企業や販売店と連携した商品開発などを実施し、6次産業化学習を展開できた。林業分野におけるインターンシップ、外部機関と連携した林業学習、流域林業事業者への見学研修などを、年間をとおして5回以上実施できた。資格取得においても、那賀町林業テクノスクールと連携し、卒業までに最大9つの林業分野の資格取得を行っている。</p> <p>授業展開においてもICTを活用し、アクティブラーニングや協働学習に取り組めた。</p>	A	<p>⑤満足度、理解度ともに大きく改善されており、これまでの取組を引き続き継続させる。また、普通科、森林クリエイト科の教科を横断した教育課程の展開を考えていく。</p>

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
2 心のかよう生徒指導 ① 基本的な生活習慣の確立 ② 安全・安心な学校教育の実施と保護者との連携強化 ③ 個別指導をととした生徒理解と望ましい集団づくり ④ 特別活動・部活動の更なる活性化と生徒・教職員の信頼関係の強化	①-1欠席数・遅刻者数 前年度の90%以下 ①-2服装・頭髪検査違反者 全体の15%以下	①-1学習習慣を確立、個人面談等を実施し、保護者との連携も図りながら、生徒が登校できるように支援する。 ①-1学期毎に、5回を超える遅刻者には、学期末に奉仕活動を実施し遅刻を減らせるように指導する。また、遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させる。 ①-2全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施する。また、違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して指導する。 ①-3定期健康診断結果に基づき医療機関への受診勧告や保健指導の充実を図る。 ①-3食生活に関するアンケートを実施し、給食検討委員会や食育推進委員会を実施し、食に対する意識を高める。 ①-3地元の伝統的な相生晩茶の茶摘み体験を2年生福祉コースの生徒が行い、希望者には、地域の食材を用いた調理実習を行う。	①-1遅刻者数は前年度47%減少した。欠席者は4%増加した。 ①-2頭髪・服装検査違反者は平均すると全体の14.5%だった。多い月で19%、少ない月で6%だった。 ①-3寮生に対して食事に関するアンケートを実施し、それを基に調理員と食事についての振り返りを実施した。	①-1遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させた。多遅刻者への指導は1学期は1名、2学期は6名が該当した。遅刻者は大幅に減少した。 ①-2全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施し、違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して再検査を行い指導した。 ①-3定期健康診断は計画的に実施でき、生徒の健康の保持増進と安全管理に役立てることができた。 ①-3寮生に関するアンケートを実施したが、調理員との協議の結果今年度は給食検討委員会は実施しなかった。	A	①-1入室許可証の提出や遅刻者指導を徹底して行う。欠席者への初期段階での働きかけを行い、長期欠席につながらないように支援していく。 ①-2軽微な違反者を減らすために、日頃からの声かけや確認を行う。 ①-3アンケートの内容を精査し、寮生の食生活の見直しを図ることができるようにしていく。
	②-1 交通・生活安全指導 毎月実施	②-1学校安全の日の登校指導を実施する。また、交通安全教室を年1回以上実施する。さらに、秋の全国交通安全運動期間中での交通安全運動を実施する。 ②-1「学校安全の日」や薬物乱用防止教室を実施するほか、携帯電話安全教室を実施する。また、地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き、合同巡視を実施する。	②-1交通・生活安全指導を毎月実施した。	②-1毎月の交通・生活安全指導のほか、交通安全教室を12月に実施した。秋の交通安全運動は鷺敷中学校生徒会と合同で実施した。また、地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き、合同巡視を実施した。	A	②-1交通安全運動は継続して実施し、交通マナーアップにつなげていきたい。自転車利用者に対して、ヘルメットの着用を積極的に進めていきたい。

令和5年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
	<p>③-1感染症に罹患した生徒数の前年度比 減少</p> <p>③-2AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会（年1回以上実施）</p> <p>③-3 学校生活に関するアンケート調査（年4回実施）</p>	<p>③-1感染症や伝染病予防の充実を図るため、年度当初及び必要に応じて随時個人面談や保健調査を実施し、健康で安全な学校生活を送るために必要な情報を集め、学習環境を整える。</p> <p>③-1年4回環境衛生検査を実施し、結果をもとに安全で衛生的な学校生活を送るため、よりよい教室環境を整える。</p> <p>③-1保健委員会の活動として、感染症予防のための教室の換気や手洗い・うがい・マスクの励行など啓発する。</p> <p>③-2事故や災害に備えて、自他の生命を守るための知識と意識の高揚を図る。</p> <p>③-3生徒のメンタルケアと、いじめ等を早期発見するため、学校生活に関するアンケート調査を実施する。</p>	<p>③-1新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となったことで感染症対策への意識の低下が見られた。また、夏以降はインフルエンザが流行し、3クラスで学級閉鎖が行われた。前年に比べ感染症への感染率が増加した。</p> <p>③-2AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会を実施した。</p> <p>③-3学校生活に関するアンケート調査を県教委実施分を含め年5回実施した。</p>	<p>③-1新型コロナウイルス感染症以上にインフルエンザが県内で流行したこともあり、本校においても感染者が多数見られた。</p> <p>③-2那賀消防署の職員を講師としてお招きし、生徒職員へAED講習会の実施を行った。</p> <p>③-3 いじめのアンケート等を実施し、生徒の実態把握に努めた。</p>	B	

令和5年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
	④ 球技大会や学校祭等の学校行事 「満足」と答えた生徒の割合80%以上	④部活動顧問会議で部活動運営上の諸課題について顧問間の共通理解を図るとともに、部活動連絡協議会を通じて部活動生徒を指導する。全校一丸となった指導を行うことにより生徒・教職員の絆と信頼関係を強化する。 ④生徒会役員・部活動生徒が活躍し、特別活動関連行事が円滑に実施できるよう、企画から運営まで計画的に指導する。	④「満足」と答えた生徒の割合は70%であり、達成はしなかったが、「学校行事による」も含めると94%が「満足」となった。	④部活動の顧問会議を開き、運営の諸課題について話し合う機会を設けることができた。 ④今年度は、昨年度より、学校行事をすることができた関係で、生徒会役員・部活動生徒などが活躍する場ができた。	B	
	③-1担任による個別面談 年3回以上実施 夏季休業中の三者面談 全員実施 ③-2スクールカウンセラーとの 計画相談実施 ③-3「通級による指導」の充 実	③-1教育相談や特別な支援を要する生徒を早期に発見し、生徒理解に努める。保護者とも連携して、信頼関係を構築し適切な対応・支援をする。 ③-2各学年団との情報交換を密にし、スクールカウンセラーにつなげる。また、生徒や保護者からカウンセリングの希望があった場合、緊急度に応じて対応するなど円滑な学校生活への支援体制を築く。 ③-3校内研修会(ケース会議を含む)の実施により、教職員の特別支援教育に関する理解を深め、生徒への指導や支援に活かす。また、学年会等で情報交換を図り、適切な支援や対応について共通理解を図る。	③-1 個別面談週間の実施、また夏期休業中の三者面談を実施したうえで面談が必要とする生徒にはその都度面談を行った。 ③-2 計画どおり、カウンセリングを実施することができた。 ③-3 当初の計画に沿って実施することができた。	③-1面談週間(4月、9月)、夏期三者面談について全員実施。その他適切に個別対応、また学年主任等も同席して行うこともできた。 ③-2カウンセリング日を生徒に案内し、希望者を把握し計画を立てた。各学年の登校状況の確認、担任との密な情報交換を実施し、スクールカウンセラーにつなげることができた。 ③-3大学の先生を招聘し、特別支援教育に関する研修や年2回のコンサルテーションを実施することができた。また、学年会で生徒について情報交換を行い、共通理解を図ることができた。	A	

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方針	
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価		
3 学びあい響きあい高め あう心の教育の推進	① 学校行事により、集団への 帰属意識や協調性が養われた と答えた生徒の割合 80% 以上	①遠足・文化祭・体育祭や大学短大等への体験 入学・企業へのインターンシップなどの行事にお いて、地域住民や中学生との交流を深めること により、マナーやモラル、思いやりを身につけ、人間 性や社会性を高める。	①学校行事に仲間と協力して取 り組むことができたと答えた生 徒の割合は96%であった。集 団への帰属意識や協調性は養 われたと考えることができた。	・修学旅行を通常通り実施でき、文化祭・体 育祭においても地域と連携して3日間実施す ることができた。文化祭、体育祭ともに公開と することができた。学校行事もコロナ禍以前 の状態に戻せつつあり、地域住民や中学生と の交流を深め、マナーやモラル、思いやりを 身につけ人間性や社会性を高めていきたい。	A		
	① 豊かな人間性と社会 性の涵養により自信や誇 りをもたせる ② 人権意識の高揚と一 人一人の人権が尊重さ れる学校づくり ③ 情報モラル教育の推 進 ④ 学校・家庭・地域との 連携の強化	②-1校内人権問題意見発表会 や人権映画鑑賞会などの行事 年1回以上開催 ②-2いじめ等のアンケート調査 年4回実施	②-1生徒の人権意識の高揚のために、校内人権 問題意見発表会で身近な人の意見を聞くこと により、様々な人権課題を自分自身の問題として捉 え、人権問題を解決する意欲や実践力を養う。 ②-1映画のストーリーについて考えたり、登場人 物の気持ちに寄り添ったりすることによって、自他 を尊重する態度を育成できるよう、連携中学校と 相談しながら映画を選定する。 ②-2アンケート調査結果により、人間関係の把握 に努め、助言や支援が必要な生徒には、速やかに 個別面談を実施する。	②校内人権問題意見発表会お よび人権映画鑑賞会を各1回実 施。 ②-2いじめ等のアンケート調査 を年3回実施	・人権意見発表会は、一部オンラインでの開 催となったが、那賀町人権擁護委員の方に來 校いただき直接参観いただけ、連携中学校 の先生方にも視聴していただいた。発表者は 身近な人権問題をはじめ、自身の悩みなど 様々なテーマについて発表し、様々な人権課 題を自分自身の問題として捉え、人権問題を 解決する意欲や実践力を養う機会を持つこ うできた。また、映画のストーリーについて考 え、登場人物の気持ちに寄り添うことで人権 意識の向上を図ることができた。 ・2学期に実施するアンケートを2回から1回 に変更したため、年3回の実施となったが、回 収したアンケートの結果を見て、速やかに個 別面談を実施することができた。また、生徒の 状況を把握し、情報共有に努め、必要に応じ て学校カウンセラーとの面談につなぐことも できた。		A
	③ インターネットやSNS等の利 用における情報モラルに関する 人権放送等の全学年行事 年1回以上実施	③人権放送において、インターネットやSNS等に 関する情報モラルのテーマを設定する。	③人権デーで「SNSにおける人 権侵害」をテーマに人権放送を 実施した。	③校内放送により全校一斉に、インターネット による人権侵害について、法律で禁止されて いることや自分が被害者になった時の対処 法などを考えたり、学んだりすることができ た。	A		

令和5年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
	<p>④-1学校・家庭・地域との連携の強化を図るために、PTAや人権擁護委員に対して人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会への参加を依頼し、広報する。</p> <p>④-2校内の人権に関する行事や部活動の様子について、月1回以上ホームページに掲載する。</p>	<p>④-1保護者・地域・近隣学校を対象にした人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会の案内を、ホームページへの掲載等を通じて行う。</p> <p>・人権擁護委員へ参加を依頼し、連携を強化する。</p> <p>④-2人権に関する行事を計画したり、ゆずの会の活動を積極的に行ったりする。</p>	<p>④-1校内人権問題意見発表会人権擁護委員の方や連携中学校の先生に参加していただいた。</p> <p>④-2月ごとの偏りはあったが、延べ月1回以上ホームページに活動を掲載した。</p>	<p>④各行事への保護者の参加については見合わせた。連携中学校教員や那賀町人権擁護委員の方には参加いただけた。意見発表会については素晴らしい内容であったというお言葉も頂いた。また部活動(ゆずの会)では文化祭の展示や校外活動を行い、その様子や学校行事の様子をホームページに掲載した。</p>	A	

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方針
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
4 夢をはぐくむ進路指導	<p>①進学希望者対象の早朝補習 1・2学年 週3回 3学年 週5回実施</p> <p>②-1オンライン学習を取り入れ、個々の進路実現に向けた学習環境を整える。 ②-2オンライン学習が効果があつたと感じる生徒 30%以上</p> <p>③ 学年段階や学科・コースに応じた進路ガイダンス 年2回以上実施 大学等訪問(1年) インターンシップ(2年)実施</p>	<p>①基礎学力の底上げと、校外模試に対応できる応用力を養うために、早朝補習を計画・実施する。</p> <p>②-1スタディサプリやClassiを早朝補習で導入し、動画コンテンツの視聴計画を立てることによって個々の進路希望に対応した学習を実践する。 ②-2Classi等を活用してオンライン学習の実施調査を行い、生徒の学習状況を振り返りを行う。 ②-3学習導入業者とも連携して、講習会や講演会を実施し、生徒自身の積極的な学習の推進を図る。</p> <p>③総合的な探究の時間(FDタイム)を活用して、大学・専門学校等の訪問(1年)やインターンシップ(2年)の振り返りを実施し、生徒のキャリア形成を支援する。 ③Classiのポートフォリオを活用し、個々の生徒の学びを振り返ることのできるキャリアパスポートを作成する。</p>	<p>①1・2学年では週3回、3学年では進学・就職・公務員のコースに分かれ、週5回の早朝補習を実施した。 ②スタディサプリを早朝補習に導入し、バス通生など補習に参加出来なかった生徒たちにも学習環境を整えることができた。 ②求人票閲覧システム「シューサポ」を導入した。 ②試験的にClassiで学習記録を取った時期もあったが、タブレット端末故障により本格的な推進は見合わせた。 ②外部講師を招いて、スタディサプリの講演会やClassiの講習会なども複数回実施した。</p> <p>③校内進路ガイダンス2回(全学年)、大学・専門学校訪問(1年)、事前校内インターンシップ(2年)、インターンシップ(2年)を予定通り実施した。事後の振り返りも、スムーズに行うことができた。</p>	<p>①早朝補習は計画通りに実施することができた。長期休業中の補習も実施し、外部講師を招いた出前授業や講演会も実施した。</p> <p>②1学年の早朝補習にスタディサプリを導入し、定期的に教員が課題を配信して補習を実施した。早朝補習に参加できる生徒に対しては、スタディサプリの活用した学習法などを教員が指導した。 ②求人票閲覧システム「シューサポ」を導入したことで、スマートフォンからでも求人票が閲覧できるようにした。3年生の就職先決定に大きく貢献した。 ②1学期にClassiの学習記録機能を活用して、試験的に学習記録を取ったが、タブレット端末不調台数が増えたことにより全体で推進することができなかった。 ②外部講師による講演会や講習会を複数回実施し、オンライン学習コンテンツの活用推進を図った。</p> <p>③県内の大学・専門学校や各種企業や、校内ガイダンス実施連携機関との連携を深めて、各種行事を滞りなく実施できた。また、昨年からはじめた、中小企業家同友会と連携して行う事前校内インターンシップも実施することができた。</p>	B	<p>②次年度、Classiが徳島県で継続利用できないことが決まっていることから、これまでのClassiやスタディサプリの活用をブラッシュアップして精選していく。</p> <p>②「シューサポ」は無償で利用できているが将来的には有償になる可能性もあるため、導入業者と密に連絡を取りながら活用を継続していく。</p> <p>③各連携企業と連携を図りながら、引き続き生徒に有益な進路行事を実践していく。</p>
<p>① 進路実現を図る学力の育成</p> <p>② 進路意識を向上させる各種行事の計画と実施</p> <p>③ 進路ガイダンスの充実と教職員のガイダンス能力の向上</p> <p>④ 資格取得・検定合格に向けた指導の充実</p> <p>⑤ 保護者対象進路説明会の充実</p>	<p>④-1大学・専門学校の説明会へ参加し、教員の進路指導スキルを高める。</p> <p>④-2スタディサプリやClassi等の教員対象研修会を実施する年3回程度</p>	<p>④-1各種大学等の説明会への積極的参加を教員に周知し、教務課と連携しながら各種説明会へ教員を派遣する。</p> <p>④-2学習支援アプリ提携業者と連携して、教員を対象とした研修会を実施し、オンライン学習の推進を図る。</p>	<p>④主に1学期に開催される各種学校の説明会や、企業が集う就職説明会などに、進路指導課員を中心に分担して参加し、情報を共有できた。 ④業者と連携しながらオンライン学習の活用を学び、職員会議などの機会を通じて、複数回(3回以上)にかけて教員に周知した。</p>	<p>④教員間で日程を調整して、生徒が進む可能性の高い進路先を中心として、できるだけ説明会に参加するように調整した。情報は共有しながら、生徒に周知出来るように努めた。 ④生徒を対象にしたオンライン学習講習会に教員の参加も促し、オンラインコンテンツ活用を推進した。参加出来ていない教員に対しては、職員会議等でオンラインコンテンツの紹介や活用の推進を促した。</p>	A	

令和5年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
	⑤ 各種資格検定を学校で行い、各科と連携を図りながら、検定対策を実施する。 5種類以上の資格検定実施	⑤農業科で取得できる取得率の向上をめざし、技能の上達と専門的なスキルのアップを目的とする。 ⑤各科目間で日程調整をしながら、資格検定を学校で実施する。早朝補習や放課後補習を開講して、生徒の資格取得率向上を図る。	⑤1年次2種類、2年次3種類、3年次3種類と全学年1種類の計9つの資格を3カ年で取得できている。 ⑤五種類以上の資格検定試験を行うことができた。	⑤林業に関する知識技術の向上につながり、林業関係への進学2名、就職5名へつなげることができた。 ⑤資格検定を各科にて行い、早朝補習や放課後補習を開講し、資格取得の機会を確保したが、取得率の向上までには到らなかった。	A	
	⑥ 各学年の保護者対象の進路説明会 年1回開催 同 参加率 40%以上	⑥学年主任を中心にして、学年の課題を共有し、テーマを明確にして各学年の進路説明会を開催する。	⑤1学年は10月(参加率約50%)、2学年は12月(参加率約25%)、3学年は6月(参加率約62%)に実施した。 保護者の参加率は全体で概ね45%であった。	⑤保護者への案内を渡し、参加を促した。1学年では外部講師を招いて進路講演会を実施し、2学年ではベネッセ担当者を招いて進路講演会と新入試に向けての情報提供などをしていただいた。		

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
5 GIGAスクール構想の推進と防災教育・環境教育の充実 ① GIGAスクール構想の推進による学びと働き方の改革 ② 防災・減災教育の深化とエンシカル教育の充実 ③ 「徳島県新学校版環境ISO」の認定取得経験を生かした環境教育の実践 ④ 校内外の環境美化活動の推進	①-1 タブレット端末を活用した授業やキャリアパスポート作成に向けた体制整備の強化を行う。 ①-2 業務負担軽減のためのICT活用を検討し、提案する。	①-1 学習支援アプリ活用について、相互授業参観やweb研修等を活用し、スキルアップを図る。 ①-2 共有フォルダや動画等を活用した研修、教員同士の協働を推進し、全員が集まった研修を減少させる。 ①-2 ICTの活用について相互研修・研究を行う。	①-1 教員間の情報交流の機会が増えている。 ①-2 Teamsや共有フォルダが教員へ浸透してきた。 ①-2 教育Joururiの機能活用等、少しずつ業務改善が進んでいる。	①-1 生徒端末の故障が相次いだり、多様なアプリやオンラインツールの情報交換が進んだ。 ①-2 Teamsや共有フォルダに研修資料等をアップし、いつでも閲覧可能にしてある。 ①-2 欠席連絡をデジタル化の実験的に実施した。	B	
	②-1 防災避難訓練・講習会等年4回以上実施 ②-2 エシカル消費に関わる『服活』等のイベントを年5回(校外3回)以上実施	②-1 防災避難訓練を学校や寮で実施し、生徒の学校防災人材支援講座への参加を支援する。 ②-1 防災食づくり講習会を通して地域の方との交流を深め、防災意識の向上を図る。 ②-2 ホームページやSNS、ポスター掲示により、服の回収や『服活』イベントへの積極的な参加を呼びかける。	②-1 避難訓練・講習会を実施した。 ②-2 『服活』を校内外あわせて27回実施した。	①-1 防災に関する活動を積極的に行い、地域の方々へ啓発活動を行うことができた。また、ホームページを活用して広く防災について広報することができた。 ①-2 エシカルクラブ員を中心に、各イベントに参加し、『服活』を行った。約6,000着譲渡することができた。 ホームページや各種メディアを通して広報することができた。	A	
	③④-1 ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合 90%以上 ③④-2 「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合 80%以上 ③④-3 SDGsを『知っている』と答えた生徒の割合 60%以上	③④-1 各生徒が校内でのゴミの分別を徹底できるよう、定期的な環境委員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけを行う。 ③④-2 環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し、日々の清掃活動の徹底に加え、大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行うことで、校内美化活動を推進する。 ③④-3 那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むとともに、バス利用者にマナーの遵守を呼びかける。 ③④-3 節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較を周知し、徹底した省エネ意識の高揚を行う。 ③④-3 身近な行動が、持続可能な社会の形成に関わっていることを、「現代社会」「家庭基礎」等の教科を通じて学習を深める。	③④-1 ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合は、約90%であった。 ③④-2 「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合は約90%であった。 ③④-3 「服活」=SDGsの結びつきを理解している生徒の割合は、92%である。	③④-1 各生徒が校内でのゴミの分別を徹底できるよう、定期的な環境委員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけを行った。 ③④-2 環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し、日々の清掃活動の徹底に加え、大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行うことで、校内美化活動を推進をおこなうことができた。 ③④-3 那賀高周辺の美化活動に取り組むとともに、バス利用者にマナーの遵守を呼びかけた。 ③④-3 節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較し、省エネ意識の高揚を行うことができた。 ③④-3 身近な行動が、持続可能な社会の形成に関わっていることを、「現代社会」「家庭基礎」等の教科を通じて学習を深めた。	B	

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
6 連携型中高一貫教育プログラムの推進	① 中高一貫教育研究委員会の教務委員会を活用し、連携に向けた取り組みの方向性を再確認させる。	① TT実施時間の確保に努め、またTTの方法についてICTの活用を含め中高一貫教育研究委員会の教務委員会において検討する。	① 中高一貫教育研究委員会教務委員会において具体的に検討中である。	① 今後のティームティーチングのあり方やタブレット端末等の活用を取り上げて、委員会を2回開催した。	B	日程調整に関しては学校祭と中学校の新人大会の時期が重なっており見直せるかは課題である。対面での交流とリモートの活用もますます充実させ、連携をより深めることが重要である。
① 地元中学校との連携を強化した授業の実践	② 行事計画について相互に交流ができるように可能な範囲での日程の調整をする。	② 体験入学、オープンスクールまた学校祭において連携中学生と直接交流ができるように計画をする。	② 連携を取り日程等の調整を行った。	② 体験入学は大雨警報発令のため中止とした。体育祭には4年ぶりに中学生も参加することができた。		
② 学校行事における合同事業の充実	③ 進学説明会をそれぞれ3中学校で行う。	③ 進学説明会に参加するとともに、公開授業等において保護者へのPR活動を行う。	③ 計画通り実施できた。	③ 中学生、保護者に対して説明会を行い、PRを続けている。		
③ 連携中学校への積極的なPR活動	②-1新しい生活様式下での学校行事での合同事業について、ICTの活用や開催方法の工夫などを協議して開催する。	②-1那賀高祭での連携中学校生の参加について、参加形態や方法について事前の連携、打ち合わせを早い段階で行う。	②-1新しい生活様式下での学校行事での合同事業について、ICTの活用や開催方法の工夫などを協議して開催する。	②-1那賀高祭での連携中学校生の参加について、参加形態や方法について事前の連携、打ち合わせを早い段階で行う。	B	
	②-2各部活動において、連携中学校との合同練習や練習試合、体験会を実施する。	②-2各部活動で中学生を受け入れ、中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。	②-2各部活動において、連携中学校との合同練習や練習試合、体験会を実施する。	②-2各部活動で中学生を受け入れ、中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。		
	②-3那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会年1回実施	②-3那賀高校と連携中学校の生徒会役員による各学校紹介や情報交換・レクリエーション等を実施し、交流を深める。	②-3那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会年1回実施	②-3那賀高校と連携中学校の生徒会役員による各学校紹介や情報交換・レクリエーション等を実施し、交流を深める。	A	
	③各連携中学校と生徒会とのオンライン交流年1回実施	③連携各中学校とZOOMでのオンライン会議を行い、中学校との交流を行う。	③令和6年1月19日、生徒会役員及び各中学校出身生徒(計8名)と、各連携中学校1学年の生徒でオンライン交流を実施した。	③本校生徒が司会進行を行い、オンライン会議を進めた。各学校が学校紹介をそれぞれ行い、その後中学校からの質疑応答に本校生徒たちが答えた。終始和やかな雰囲気の中で会議を進め、那賀高校の魅力を生徒の視点から中学生へ伝えることができた。		

令和5度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	
7 地域に開かれた活力ある学校づくりの推進	① 学校運営協議会において、本校教育活動や地域の抱える課題等について協議し、新しい取組を検討する。	① 学校運営協議会を年3回実施し、特色ある教育活動等を協議し、地域と協働して実施していくことのできる取組を検討する。	①年3回実施することができた。 第2回開催時には、生徒の活動発表を取り入れることができた。	①学校運営協議会委員からは、学校運営の充実に資する指導や助言をいただいた。また、地域探究活動でのコーディネーター役や講義や見学などでご協力をいただき、地域への理解を深める機会となった。	A	
① コミュニティ・スクールの導入による地域とともにある学校づくり ② 魅力ある学校行事の実施と保護者や地域の人々への学校公開 ③ ホームページ、広報新聞、ケーブルテレビ等によるPR ④ 地域との連携を密にした学習活動と地域の担い手となる「人財」の育成	②-1球技大会や学校祭等の学校行事について、「満足」と答えた生徒の割合 80%以上(再掲) ②-2一般公開される行事(那賀高祭等)について、期日・内容等を早期から広くPRする。	②-1学校行事に生徒が主体的に参画できるよう、生徒会が中心となる取組を検討する。 ②-2参加可能な地域の活動・行事に、ボランティア活動等で参加する。 ②-2一般公開される行事の期日・内容等を地域のケーブルテレビ等を使って広報するとともに、地域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画して実施する。 ②-2那賀高祭等の学校行事や日々の学校生活について保護者の意見を聞く機会を設けられるようICTの活用等について工夫する。	②-1球技大会や学校祭等の学校行事について、「満足」と答えた生徒の割合 80%以上(再掲) ②-2一般公開される行事(那賀高祭等)について、期日・内容等を早期から広くPRする。	②-1学校行事に生徒が主体的に参画できるよう、生徒会が中心となる取組を検討する。 ②-2参加可能な地域の活動・行事に、ボランティア活動等で参加する。 ②-2一般公開される行事の期日・内容等を地域のケーブルテレビ等を使って広報するとともに、地域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画して実施する。 ②-2那賀高祭等の学校行事や日々の学校生活について保護者の意見を聞く機会を設けられるようICTの活用等について工夫する。	A	
	③ 広報新聞(「せせらぎ新聞」) 年3回発行	③-1 HPとは違う良さを考え、CS等で聞き取りをし、地域や保護者が知りたい情報を提供できる記事を作る。 ③-2 那賀高校の取り組みが伝わる記事を作成し広報できるようにする。	③-2 那賀高校の取り組みが伝わる記事の掲載に努めた	③今年度も計画どおりせせらぎ新聞を年3回発行することができた。	A	
	④-1 地域産業の体験活動を実施 ④-2 地域でのインターンシップを実施 (2学年2日間)	④-1「福祉」「情報」「林業」以外でも実施する。また、コーディネーターの確保にも努める。 ④-2地域の伝統産業産業や伝統文化を体験させる。 ④-2 生徒の進路選択につなげるインターンシップ受入事業所を開拓する。	④-1 普通科2年「地域資源活用」で各学期に3~4回程度阿南・那賀地域の企業や事業体へ見学研修へ行く事ができた。 ④-2 2学年において11月に2日間のインターンシップを実施した。また、昨年度から実施している中小企業家同友会と連携した学内インターンシップも7月に実施することができた。	④-1 地域に出向き、地域のことを学び那賀町の現状や抱える課題を知ることができ、チームごとのプロジェクト学習に取り組む事ができた。 ④-2 学内インターンシップでは11社が来校し、体育館で事前学習会を実施した。インターンシップでは42社の事業所でインターンシップを実施することができ、受入事業所の開拓に成功した。	A	